



Title	井戸さんの思い出
Author(s)	山本, 繁
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 41-42
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100738
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

井戸さんの思い出

山 本 繁

元尼崎市保健所長
元 NPO ヘルスサポート大阪常任理事

小生が貴兄に最初に出会ったのは、2007年1月?の頃かと思います。HEALTH SUPPORT OSAKA（以下 HESO と略）が、大阪市に対して胸部X線検診車の更新を要請するために、兵庫県健康財団所有の胸部デジタルX線検診車を視察・見学した折と記憶しています。大阪府庁にて結核対策を担当されていた頃だったと思います。「実直な公務員」「超真面目な診療放射線技師」というのが第一印象ですが、「このようなデジタル検診車を導入すれば西成の結核対策は一步、二歩と前進するでしょう。是非、大阪市には導入を勧めましょう」との熱い一言に感激して、改めて一緒に仕事ができれば有難いと思い、逢坂隆子先生と共に HESO への参画を誘った記憶が蘇ります。

以後、親しく付き合せてもらうことになりました。貴兄のお陰で、尼崎市役所退職後の人生は充実したものになりました。HESO への参画や大阪公衆衛生協会への訪問が楽しくて、色々な刺激を受けて長生きできている訳です。まさに、お付き合いに感謝しております。ありがとうございました。

さて、貴兄に学んだ点を挙げてみます。まず、結核罹患患者へのインフォームドコンセントです。大阪府における結核一筋の経験に加えて、結核病学の大家であった亀田和彦先生との親交が厚かったので、患者へのわかりやすい説明力には驚きませんでした。検診会場での即医療決断に結びつける同意には貴兄の温和な目線と寄り添う包容力がなせる技と感心しました。おそらく、苦勞された和歌山での生い立ちが原点にあるかもと推測しましたが・・・。

さらに積極的に社会医療センターへの同伴受診や HESO 事務所等での面談に取り組み、医療中断が無くなることを教えてもらいました。実際の暮らしを配慮して働きかけを続ければ日雇い労働者等の自己決定権を尊重できることも実証されました。西成での DOTS 終了者の集まりにも通じた、あの優しさには脱帽しかありませんでした。

次に、4S（整理・整頓・清掃・清潔）の実践です。HESO 事務所は、当初釜ヶ崎支援機構の2階（プレハブ）を、次いで黒川診療所の2階を借用して運営していましたが、いつも4Sが徹底されていました。学習会や DOTS 終了者の集まりなどを開催した折の借用会場でも事前に掃除をされていたし、植木の水やりまでされていました。綺麗好きの域を超越した徹底さには負けました。

この習慣は、2013年に赴任された、谷町1丁目にあった大阪公衆衛生協会の事務所でも継続して実践されていました。協会の事務処理は膨大にもかかわらず、きちんとファイリングをされておられたので、少し質問すると色々な資料を次々と見せていただき、いつも啓発されていました。今から振り返ると、事務局長だけでなく学芸員の役割もされていたわけと納得です。

産業保健の現場では、4Sが標語として掲げられますが、その実践は口で言うほど簡単ではないので、小生の産業医としての職場巡視の折には貴兄の実践を念頭において意見書を書くようになりました。

た。

最後に、挨拶の励行です。貴兄は、いつでも、どこでも、誰とでも、会釈をしながら＜おはようございます＞＜こんにちは＞＜ありがとう＞の挨拶ができる人でした。小生はコミュニケーションの基礎には挨拶があると考えますので、このスタイルにはいつも拍手していました。だから、短期間のうちに、愛隣地区で「HESOの井戸さん」の存在感が生まれたと思います。貴兄が挨拶を重んじたからこそ、日雇い労働者等愛隣地区の人達の信頼を得られ、HESOの活動力が飛躍するという好循環をもたらしたと考えます。縁が縁を呼びました。小生も元気をもらった一人です。

それから、個人的にはお世話になった点を追加して披歴します。天王寺にある普茶料理店：阪口楼に連れて行ってもらったことです。貴兄の紹介で小生の知人・友人もしばしば利用させてもらいました。皆さんにはとても喜ばれる珍味店でした。コロナ禍の折でしたが、貴兄の主治医である湯川研一先生を交えて懇談し喫食したことも懐かしく思い出します。あの時、得意の詩吟を聞かせてもらいました。朗々と吟じる姿も目に焼き付いています。最後の晚餐になるとは、思いもよらぬことでした。

改めて、貴兄の早い旅立ちを悼み、ご冥福を祈ります。合掌。